

名医が答える

病気と体の悩み

久保田有一 脳神経外科医



認知症が進行して在宅での介護が難しくなると、施設への入居を検討するケースが少なくないでしょう。そうした施設内で多いのが貴重品管理のトラブルです。認知症を発症すると、お金に対する執着が異常に強くなる方がよく見られます。背景には、「若い頃に経済的に厳しい環境で育った」「長い間1人暮らしをしていて金銭の管理を自分で行っていた」ことなどがあると考えられます。認知症の方がよく「お金を盗まれた」と訴えるのもお金への執着からくる妄想で、「物盗られ妄想」と呼ばれる認知症の症状のひとつです。介護士や家族など、顔を合わせる機会が多い人物を疑うのがこの症状の特徴です。

トラブルを避けるために、認知症患者さんが多く入居する施設では、貴重品の持ち込みを完全に禁止している所が少なくありません。一方で、家族と職員がよく相談した上で現金の持ち込みを許可し、自由にお弁当やお菓子、飲み物を購入できる施設もあります。

どうしても、そうした施設では貴重品トラブルが起こる可能性があると認識して、家族は対策しておきましょう。

まず、認知症の方が「盗まれた」とパニック状態になっていたら、家族の人は否定せず、まずは本人の主張を傾聴しましょう。「一緒に捜そう」「必ず見つかるので大丈夫だよ」といった言葉かけを行うと、本人は安心して落ち着きます。疑われた家族は、イライラしてつい強い口調で「盗っていない」と否定したくなるでしょう。ですが、記憶障害により貴重品を置いた

「施設での金銭トラブルを防ぐために貴重品の管理はどうするべきか」

▽くぼた・ゆういち 1998年山形大学医学部医学科卒業後、2001年国立精神・神経センター武蔵病院、03年東京女子医科大学脳神経センター、09年アメリカ・クリフランドクリニック、10年フランス・ティモン病院、11年朝霞台中央総合病院、19年TMGあさか医療センター副院長を経て、現在は東京女子医科大学付属立医療センター脳神経外科で教授を務める。著書に「増補改訂版 知っておきたい『てんかんの発作』」。

記憶自体がなくなっているので、まさか自分がどこかに置き忘れたと考えるのが難しいのです。強い態度で接するときには混乱して不安が増し、興奮して時には介護者に暴力を振るうケースもときどき目にします。

認知症の方に現金を渡す際は、万が一紛失しても損失が少ないような金額にするといいたいでしょう。可能であれば施設側に保管をお願いしてください。実際、私が勤める病院の関連施設では看護師が保管しています。記憶の維持が可能な軽度認知障害の方の場合、置いた場所を思い出せるので自室にある金庫に鍵をかけて自己管理ができますが、認知症が進行していると、その鍵を置いた場所を忘れてしまうので自己管理は難しくなります。

施設によっては、入居者さんの貴重品を保管してくれるほか、お金の使い道を記録して家族に提出してくれるところもあります。認知症の方が盗まれたと不安になっても、出納の記録を自分の目で確認すると安心できます。これから入居を検討していて貴重品の管理が心配であれば、事前に施設へ保管方法を確認しておくといいたいでしょう。